

# プレドネマ<sup>®</sup>注腸20mg 使用説明書

—より良くご使用頂くために—

切り取って、ご使用ください。

本剤のご使用にあたりまして、ご不明な点、お気付きの点などがございましたら、主治医の先生または薬局の先生にご相談いただくか、弊社窓口までご連絡ください。

杏林製薬株式会社

《お問い合わせ先》 くすり情報センター

TEL:0120-409341 / 受付時間 9:00~17:00 (但し、土、日、祝日を除く)

# プレドネマ®注腸20mg使用説明書

～ご使用の前に必ずお読みください～

●本剤は光に不安定なため、アルミ袋開封後は速やかに使用してください。

—腸を刺激しないために—

1 ※必要に応じて行ってください。



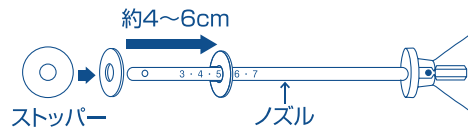
1 アルミ袋のまま適温のお湯につけ、体温程度に温めてご使用ください。

2 使用直前にアルミ袋から容器を取り出してください。

—より安全に使用するために—

【ストッパーの使い方】

2 ※必要に応じて行ってください。



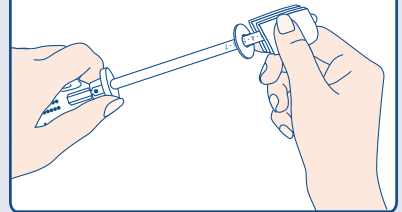
●円盤状のストッパー1枚を上図のように差し込んでご使用ください。

※ストッパーはノズルの先端から約4～6cm（目盛4～6）を目安に差し込んで下さい。

※ノズルが肛門内に入りすぎると直腸粘膜を傷つけることがありますので、特に初めてご使用される場合はストッパーをご利用ください。

—スムーズに挿入するために—

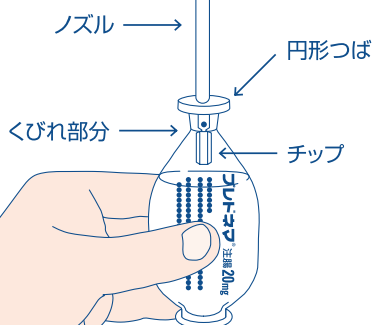
3 ※必要に応じて行ってください。



●ノズルが挿入しづらい場合はノズル上部に潤滑剤（ワセリン、オリーブ油等または水）を塗ってご使用ください。

—開栓時の容器の持ち方—

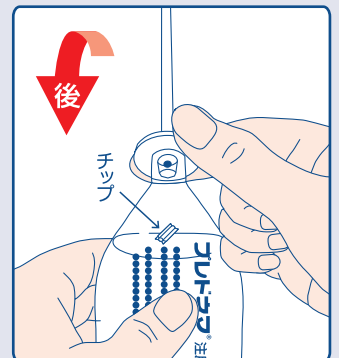
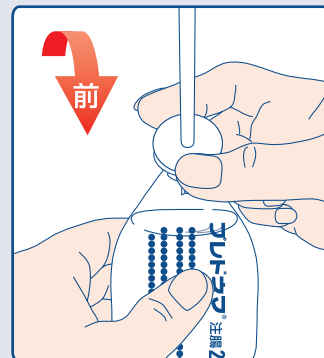
4



1 「プレドネマ」の文字が入っている面を手前になります。

2 ノズルを上に向けて胴体部分を軽く持ちます。

—チップの切り離し方—



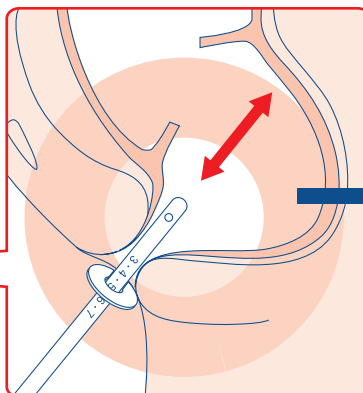
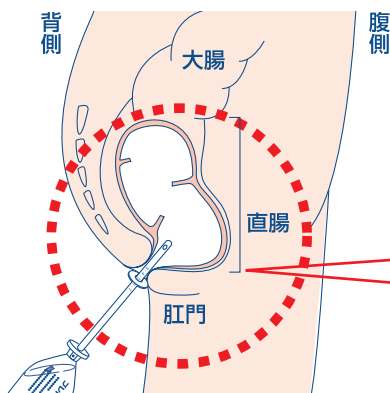
1 円形つばを持ち、「くびれ」部分を1回ゆっくり前後に折り曲げます。  
※左右（横）方向・斜め方向に折り曲げると、液漏れを起こすことがあります。

2 チップが切り離され薬液が出るようになります。  
※チップが完全に切り離されなくても、チップがズレて薬液は出ます。

※開栓時に容器を強く握りしめると、薬液が飛び出すおそれがありますので、軽く持つようにしてください。

※まちがって目に入ったり、体に付着した場合は、水で洗い流してください。それでも何かおかしいと感じたら医師にご相談ください。

※挿入前に必ずお読み下さい。



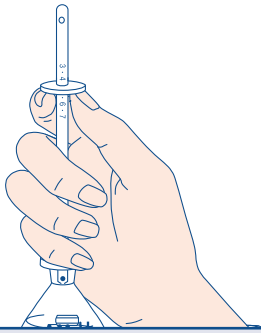
ノズルが入る長さには個人差があります。  
無理に挿入すると直腸粘膜を傷つけることがありますので特に初めてご使用される場合はストッパーを装着してご使用ください。

裏面を必ずご覧ください



－挿入時の容器の持ち方－

5

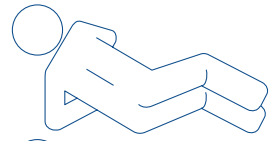


- ストッパーの下部や、挿入の目安とする目盛に指を合わせて持ちます。  
※上記の持ち方で挿入しづらい場合は、ノズルの先端を持ってください。

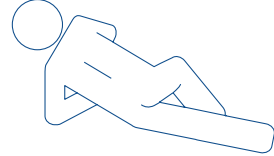
－挿入時の体位－

6

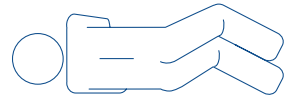
例1)



例2)



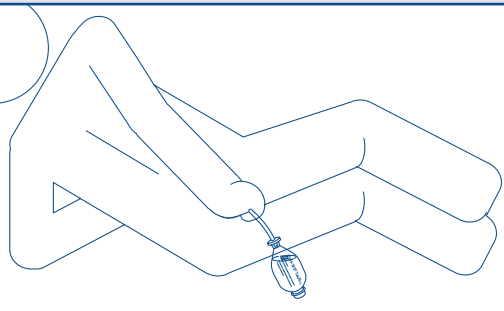
例3)



- 左腰を下にした体位が基本となります。

－ノズルの挿入と薬液の注入－

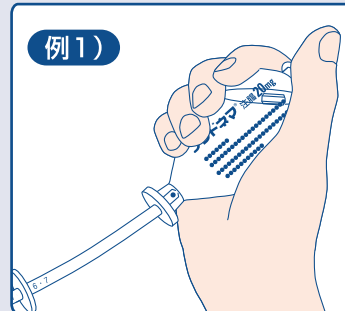
7



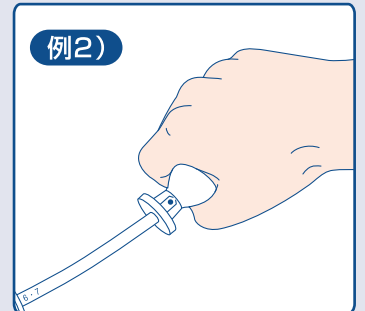
- 1 左腰を下にした体位で、肛門からノズルをゆっくりと無理せず慎重に挿入します。  
※ストッパー使用時はストッパーが身体に接触するまでを目安に挿入し、無理な挿入は避けてください。

－注入時の容器の持ち方－

例1)



例2)



- 2 容器の後方を高くして、薬液をゆっくり注入します。注入後は容器を握り締めたまま、ゆっくりノズルを引き抜きます。  
※注入時に薬液がもれる可能性があります。必要に応じて防水シートなどを敷いてご使用ください。  
※残液は廃棄し、再利用はしないでください。

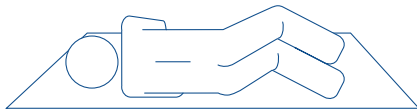
体位変換は医師の指示のもと、必要に応じて行ってください。

－60mLの薬液を直腸とS状結腸に充分到達させる体位変換－

8

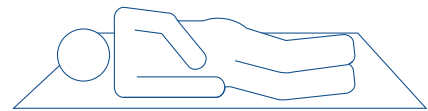
1.左下

薬液をゆっくり注入後、2～5の体位変換を行ってください。



5.右下

最後に、右腰を下にして、1分間静止してください。



2.腹ばい

腹ばいになり、1分間静止してください。



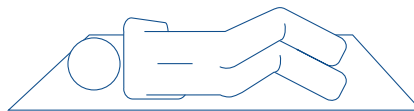
4.仰向け

仰向けになり、1分間静止してください。



3.左下

再び、左腰を下にして、1分間静止してください。



※体位変換終了後は、楽な姿勢でおやすみください。

- 十分な効果を得るためには、注入した薬液をできるだけ長い時間大腸に保持しておくことが大切です。
- 薬液を全量入るとすぐに排出してしまう場合は、無理せず注入できる液量から開始してください。次第に全量が注入できるようになります。

指導:杉野吉則先生(慶應義塾大学病院 放射線診断科)

本剤のご使用にあたりまして、ご不明な点、お気付きの点などがございましたら、主治医の先生または薬局の先生にご相談いただくか、弊社窓口までご連絡ください。

杏林製薬株式会社

《お問い合わせ先》 ぐすり情報センター

TEL:0120-409341 / 受付時間 9:00～17:00 (但し、土、日、祝日を除く)



2 010480 008104

ORPD 0008  
改訂年月：2014.7